

阿蘇ジオパーク学習プログラム

1 活動の目的、効果

(1) 体験活動上の効果


◎阿蘇の自然に親しむ ◎阿蘇の文化に親しむ ◎課題克服・達成感

(2) ESD の課題解決に必要な7つの能力・態度

③ 多面的、総合的に考える力

人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的・総合的に考える力

2 活動の詳細

概要 (セールスポイント)	阿蘇の火山や草原について学んだり、防災・減災に関することを学んだりすることをとおして、「自然」と「人々の暮らし」の関係を学ぶことができます。理科や社会、道徳などの深化学習としても活用できます。					
	諸条件	実施形態	全行程指導（ジオガイドによる）		提出書類	ミュージアム・ジオパーク・防災学習申込書活動
		必要経費	別記載		所要時間	別記載
		活動場所	別記載		対象・人数	別記載
時期	通年	下見	不要	天候	内容による（要相談）	
準備するもの	青少年交流の家で貸し出し可能な物			団体で準備する物		
	<ul style="list-style-type: none"> 無線機 ピブス 等 			【個人】 <ul style="list-style-type: none"> 帽子 ・手袋（軍手） ・水筒・雨合羽（傘不可） 野外活動に適した服装（長袖・長ズボン） リュックサック ・運動靴 ・タオル（ハンカチ） ティッシュ ・ビニール袋 （必要に応じて） <ul style="list-style-type: none"> 弁当 ・防寒防風着 ・救急用品 【団体】 ・救急用品 ・携帯電話 ・笛 等		
役割分担	青少年交流の家で行うこと			団体引率者が行うこと		
	1) 実施前 <ul style="list-style-type: none"> 団体の受け入れ確認（催行者へ） 受入可否の連絡（申込者へ） 2) 当日 <ul style="list-style-type: none"> 物品の貸し出し 貸出物品の受け取り、参加人数の確認 			1) 実施前 <ul style="list-style-type: none"> 学習の申し込み（交流の家へ） 催行者との詳細協議 2) 当日 <ul style="list-style-type: none"> 貸出物品の受けとり 安全、マナー指導 活動中の人員、健康状態の把握 終了後の物品の返却、参加人数の報告 		



3 活動のふりかえりのポイント

視 点：①「阿蘇ジオパークに関する体験や学びをとおして、感じたこと、考えたこと、気づいたことを共有しあう。」
 ②「阿蘇の自然や歴史とそれを維持している人々の営みが、自分たちの生活とどのように関わっているか考える。」

発問例：①「今日活動した〇〇について、感じたこと、考えたこと、気づいたことを班の中で発表してみよう。」

②「今日活動した〇〇は、私たちの毎日の生活とどのようなかかわりがあるでしょうか。」

4 SDGsで目指す姿

 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>11.4 世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。 阿蘇ジオパークをとおして、阿蘇の自然、文化、人々の営みについて知るとともに、長い年月をかけて維持してきた人々の努力に気づく。 阿蘇での学びから、自分が生活する地域にある自然や文化などについて思いを馳せ、地域社会の一員として、自分にできることを考え行動できる姿。</p>
---	---	--

プログラムの流れ

事前説明 10分

①安全面 ②健康面 ③マナー面等について事前に説明をしましょう。

活動

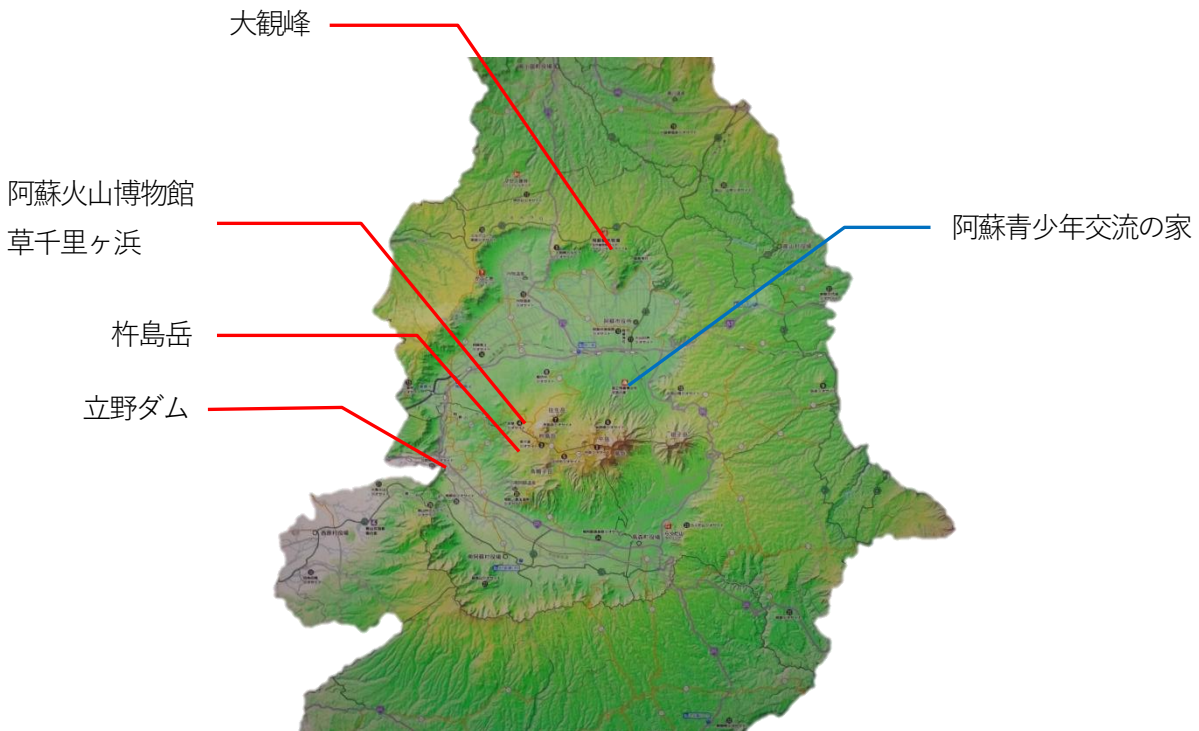
※時間は、実際の活動時間です。移動時間は含みません。

プログラムA	杵島岳ハイキングコース（約1.5時間～）
杵島岳に登ったり、阿蘇火山博物館で火山について学習したりします。	
プログラムB	火山博物館ガイドツアー（約1.5時間～）
阿蘇火山博物館で、阿蘇火山について学習します。	
プログラムC	草千里ヶ浜草原ツアー（約1.5時間～）
草千里ヶ浜を中心として、草原について学びます。	
プログラムD	大観峰草原ツアー（約1.5時間～）
大観峰を中心として、草原について学びます。	
プログラムE	熊本地震に学ぶ防災学習コース（約2時間～）
熊本地震震災遺構を中心に「熊本地震」について学び、防災・減災についての意識を高める学習を行います。	
プログラムF	立野ダム・白川に学ぶ水防災学習コース（約1.5時間～）
立野ダムを中心として、水害への意識付け、防災・減災について学びます。	
※プログラムFについては、2023年秋以降に提供予定	

活動後

人数・健康状態の確認、借用物品の返却

ジオサイトマップ



ジオガイドの活用

活動を行う際、**ジオガイドが引率者に代わって、各コースの解説をします。**

- ①ジオガイドを手配する都合上、このプログラムを希望される場合は、**活動2カ月前までに指導依頼用紙を提出してください。**
- ②ジオガイドが何名配置されるかは、申込団体と実施団体との打ち合わせの際に確認をして下さい。

料金について

- ・各コース、参加者1名につき800円となります。例えば、参加者50名だと、合計40,000円となります。また、A「杵島岳ハイキングコース」、B「火山博物館ガイドコース」、C「草千里ヶ浜草原ツアー」については、別途駐車料金（大型バス1台2000円、マイクロバス1000円、普通車1台500円）が発生します。

移動時間について

各見学地と阿蘇青少年交流の家との移動時間については、

A	
B 杵島岳・火山博物館・草千里ヶ浜	約30分
C	
D 大観峰	約30分
E 新阿蘇大橋近辺	約30分
F 立野ダム近辺	約30分

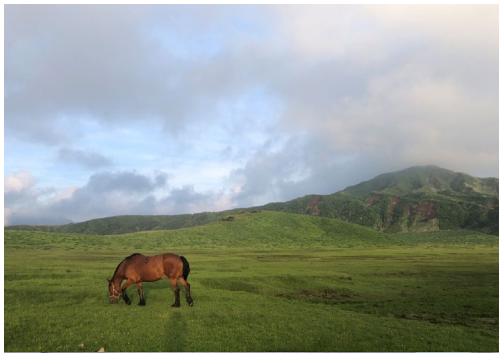
※各時間は、片道分。交通状況により時間は前後します。

【C】草千里草原ツアー（1.5h）

およそ2万7千年前の噴火の跡地：草千里ヶ浜。

かつては放牧地として草原を活用してきたが、現在は国際的な観光地としての役割が大きい。有名な草原は1年以上、伝統的な野焼きの結果維持されてきた。しかし少子高齢化などで消滅の危機となっている。ガイドの案内によって散策しながら火山、SDGs、防災・減災、受け継がれてきた伝統の未来、自然と私たちの関わり、多様な人々が集う場所、など様々な内容を学ぶことができ、探求課題にあわせてカスタマイズが可能。

草千里の地下6～7 kmには、現在噴火している中岳のマグマだまりが存在しているといわれており、土地のつくりと変化や流れる水の働き、火山学の導入としても活用できます。



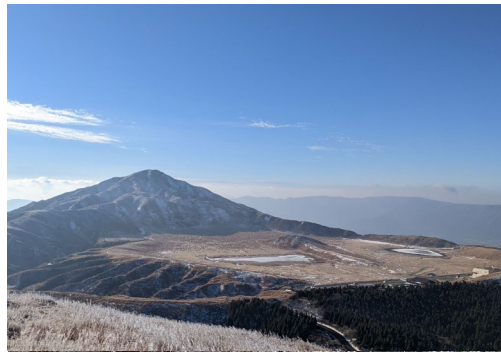
草千里の放牧



野焼き後、新緑が芽吹いた草千里



野焼き直後の草千里



冬の草千里



春の草千里

■本コースの見どころ

火口跡

巨大な噴火口跡に草原が広がる独特な景観。草原の中央に溶岩ドームが残り、散策しながら火山の息吹を感じることができる。

草原植生

毎年2～3月に行われる野焼きによって維持される草原。野焼きをやめると低木などが蔓延ってしまう。草原を維持することでみられる野草も観察できる。

草原動物

草原だからこそ生きることができるカヤネズミなど草原環境に住む様々な動物昆虫を観察できる。

■学習のみちしるべ

次のようなテーマで事前・事後学習を行うことで、持続的に自然とともに生きる暮らしを「自分ごと化」を図ることができます。

- 観光客として行ってみたい場所はどういうところ（草千里が放牧地から観光地へ役割をかえる事ができた理由は？）
- 自分の住む場所の土地の成り立ち、身近に落ちてる石や砂を観察してみよう。どこからやってきた？
- 自分が住む場所の近くの自然はどうやって出来たか考えてみよう。本当に昔から自然だったのか？

【実施主体】阿蘇ジオパーク推進協議会（担当：渡邊）

【実施場所】草千里ヶ浜（国立阿蘇青少年交流の家より片道30分）

【受入人数】15～240人（1～6クラス程度）※人数が多い場合はローテーションにて対応

【料 金】参加者1名につき800円

【ご連絡先】TEL: 0967-34-2089 / MAIL: info@aso-geopark.jp / FAX: 0967-34-2090